

東北医科薬科大学病院 病院概要 2026



理念・基本方針

院 是	理 念	基本方針
忠恕	真心を尽くし 思いやりの心で務める	心のこもった医療 最も新しい医療 納得できる医療

患者さんの権利

01. 個人の尊厳が保たれ公平な医療が受けられる権利

患者さんは、常に個人としてその人格を尊重され、人種、国籍、宗教、信条、性別、年齢（未成年等）、社会的地位、病気の種類（精神障害・認知症等）や障害の有無によって差別されることなく、等しく医療を受ける権利を有します。

02. 知る権利と自己決定の権利

患者さんは、病名、病状、検査の方法と危険性、治療法の選択肢、その内容と危険性、治療後の経過の見通し、治療に要する費用について理解できるまで説明を受ける権利を有します。また、当院で受ける医療に関して意見や希望を述べることができ、他の医師等に意見を聞く権利を有します。患者さんは、これらを理解した上で、自らの意思に基づいて、医療行為を選択し同意する権利を有し、希望しない医療行為を拒否する権利を有します。

03. プライバシーが守られる権利

患者さんは、その同意なくして、診療の過程で得られた個人情報、診療に直接関与しない第三者に開示されない権利を有し、プライバシーが守られる権利を有します。

04. 安心で安全な医療を受けられる権利

患者さんは、医療事故や院内感染の発生防止および、院内の保安管理などに配慮された医療を受ける権利を有します。

患者さんの義務

01. 正確な情報提供と医療者側とのコミュニケーションの協力の義務

患者さんは、効果的な治療や検査を受けるため、正確な情報を医療者に伝える義務を有します。また、ご自身が受ける医療に関して不明な点や不安がある場合には、自己の気持ち考えを伝える義務を有します。

02. 院内の規則、治療に関わる指示やアドバイスを遵守する義務

患者さんは、治療効果を最大とするため、医療者側からの説明に基づいて同意された治療計画等を遵守する義務を有します。これらの治療計画に従わず生じた結果についての責任はご自身にあることをご承知ください。

03. 迷惑行為等を行わない義務

患者さんは、他の患者さんや見舞客および職員等に対して嫌がらせ、暴言、セクハラ、暴力等の迷惑行為を厳に慎む義務を有します。迷惑行為と認められた場合には法的責任が問われることがあります。

04. 医療費の支払い義務

患者さんは、当院で受けた医療に対して請求された医療費は、遅滞なく支払う義務を有します。

こどもの患者さんの権利

01. こどもたちは、ひとりの人間として大切にされます。

02. こどもたちは、病院にいても、家族といっしょに過ごしたり、会ったりすることができます。

03. こどもたちは、病気のときも、遊んだり、勉強したりすることができます。

04. こどもたちは、病気のことや病気を治していく方法について、分かりやすい説明を受けることができます。

05. こどもたちは、自分の考えや気持ちを病院の人に伝えることができ、できるだけ希望通りになるように努力してもらえます。

06. こどもたちは、他の人に知られたくないと思うことを秘密にできます。

こどもの患者さんに守ってほしい約束

01. あなたの病気が良くなるように、あなたのからだや気持ちのことを、できるだけ詳しく病院の人たちに伝えるようにしましょう。

02. あなたとみんなが気持ちよく過ごすために、病院の約束を守りましょう。

ご挨拶

2026年4月より東北医科薬科大学病院長を拝命いたしました。本院は、東北地方の地域医療に貢献する人材の育成を使命とする医学部開設に合わせ、2016年に東北医科薬科大学病院となって10年が経過しました。前身の東北厚生年金病院からの役割も引きつぎながらも、この10年間で診療の規模・質を充実させつつ、2025年には公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価（一般病院3）を受審するなど、大学病院としての機能・体制の整備もすすめてまいりました。

東北地方の医療をめぐる課題は多くありますが、それらの課題に真摯に取り組み、次なる10年を見据え「これからの地域医療の診療・教育・研究の拠点となり、将来にわたり地域社会から必要とされる大学病院であり続けること」を目指し、歩み続けてまいります。

本院の院是である「忠恕」は「真心を尽くし思いやりの心で務める」と解されており、医療のあるべき姿を示しています。この素晴らしい理念を常に心に抱き、

- 1) 患者さん・地域医療のため
- 2) 教育・研究のため
- 3) 働く全ての職員のため

という3つの価値観を大切にしながら病院運営を進めてまいります。今後とも皆さまのご支援ご協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

病院長

川本 俊輔

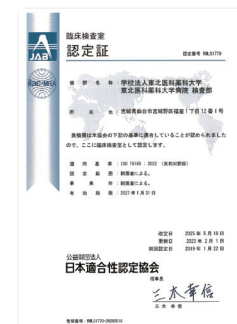
目次

理念・基本方針・患者さんの権利と義務	01
ご挨拶	02
10周年によせて 特別メッセージ	03
写真とデータでみるこの10年	05
HISTORY・主な沿革・歴代病院長	07
中長期計画	09
概要・組織図・役職員	10
主な指定医療	13
施設基準届出状況等	13
患者・診療等の状況	16
社会連携活動の状況	21
フロアガイド・建物配置図	23
アクセスマップ・ご寄付のお願い	24



公益財団法人 日本医療機能
評価機構 認定病院
初回認定 2000年4月

機能種別版評価項目 3rdG:Ver.3.0
主たる機能 一般病院3



公益財団法人 日本適合性
認定協会 ISO15189認定
臨床検査室
初回認定 2019年1月

10周年によせて 特別メッセージ



学校法人東北医科薬科大学 理事長
高柳 元明

東北医科薬科大学病院開院10周年を迎えましたこと、理事長として大変嬉しく思い、心よりお祝い申し上げます。

2013年に前身である東北厚生年金病院を譲受け、東北薬科大学病院となり、その後2016年の医学部新設に伴い現名称へと改め、今日まで発展を続けてまいりました。また、東日本大震災以降、より一層「東北の地域医療を支える」という使命感のもと、良質かつ高度な医療の提供に加え、地域医療に貢献する医師・薬剤師等の養成・輩出を実現してまいりました。これもひとえに、教職員一人ひとりの献身的な努力と、地域の皆さまからの温かいご支援の賜物と御礼申し上げます。

この10年間、社会情勢や医療環境の変化の中で多くの課題に直面しながらも、常に患者さまの安全と安心を最優先に組織として成長を続けてこられたことは大きな誇りです。10周年は節目でもあり、新たな挑戦の始まりでもあります。これからも地域医療の中核として、変化に対応しながら質の高い医療を提供し続けられるよう、また、地域に根差した医療人の養成を通じて、地域社会への貢献に一層努めてまいります。

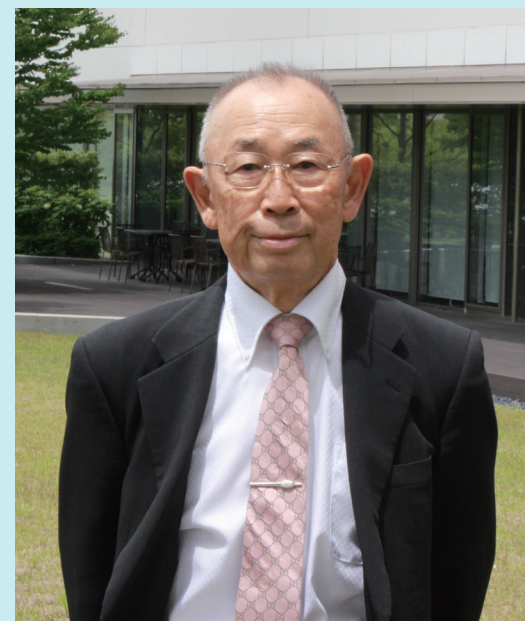
結びに、病院のさらなる発展を期待するとともに、病院に関わる皆さまのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

2016年の開院以来、本院は真心と思いやりに満ちた医療を実践しつつ、前身である東北厚生年金病院が果たしてきた仙台東部の地域医療を継承しながら、新たな大学病院として歩みを進めてきました。この10年間で、医師数は300名、看護師数は600名を超え、全職員は合わせて1300名以上となり、高度で安全な医療を提供できる病院へと着実に成長しています。新型コロナウイルス感染症の流行時期においては、感染状況の変化に対応しながら医療提供体制を維持するなど、幾多の困難な局面においても、全職員のたゆまぬ努力により乗り越えることができました。

2019年に本学医学部生の臨床実習が開始されました。これまでに医師として社会に送り出した卒業生の約7割が東北地方で勤務しており、医療人を育成し東北地方の医療に貢献するという本学の使命を果たしています。また、かねてからの目標であった特定機能病院化も現実になりつつあります。次の10年に向けて、患者さんご家族、地域の医療機関から一層信頼される大学病院として、さらなる発展を遂げることを祈念しています。



東北医科薬科大学附属病院 統括病院長
東北医科薬科大学病院 前病院長
佐藤 賢一



東北医科薬科大学医学部 名誉教授
東北医科薬科大学病院 初代病院長
近藤 丘

東北医科薬科大学病院のスタートは、私が病院長として赴任した1年後のことでした。それまでの一般市中病院から医学部を有する大学病院となるにあたり、医学教育のための体制を整えることが必要となりました。医学部設置以前の80名程度の医師数は臨床系教員として140名ほどに増員し、病床数は466床から600床に増床、診療科も6診療科増やすことになりました。

これに伴い、患者数は外来・入院ともに急激に増加し、外来診療スペースとともに、検査室、薬剤部、採血室の拡充や放射線機器の増設が必要となりました。加えて、産科分娩室、血液透析室や救急センターの増設、理学療法室の確保、さらには増加した教員の居場所の確保など、教育研究棟と新病院棟の完成まで、プレハブ棟の建設などで不足分を補いながら、次々と改修と移転を繰り返すという、目まぐるしい対応を迫られる日々でした。

新病院棟が完成して手術部が移動し、その後を整備することが私の在任中の最後の仕事となりました。現有施設の限界を踏まえ、今後さらなる整備・更新を図り、医師をはじめとした充実した医療スタッフがその力を遺憾なく発揮できる病院として、さらに成長することを、開設10周年にあたり心より祈念する次第です。

東北医科薬科大学病院として10周年を迎えられたこと、心からお祝い申し上げます。私は、前身である東北厚生年金病院の時代から、長きにわたり看護師として仕事をさせていただきました。

この10年を振り返りますと、激動の時代でありました。東日本大震災の被災から復興をめざし、新たな組織として大学病院が設立されました。病院敷地には医学部の教育棟が建ち、周辺も様変わりしてきました。以前は、病院の周りにメタセコイアの並木があり、四季折々の姿を見せる素敵な景観でした。時代のうつり変わりとともに新しい建物ができ、並木も少しずつ減っていき、寂しい思いをしたこともありました。震災の復興を遂げた後には、世界的にも医療が困窮した新型コロナウイルスとの闘いがありました。この事態も、全職員が力を合わせて乗り切ることができたことに、今でも職員の皆様へ感謝の思いでいっぱいです。

さまざまな危機的状況にも立ち向かい、地域の皆様に信頼される病院、高度医療から地域医療までの連携にも力を注ぎ、躍進してきた病院です。今後も新たな事業の拡大に向けて、ますます質の高い医療を提供し、地域の皆様に愛される病院として歩まれていくことをご期待申し上げます。



東北文化学園大学
医療福祉学部看護学科 特任教授
東北医科薬科大学病院 初代看護部長
瀬戸 初江

写真でみるこの10年

2016年

2016.4

「東北医科薬科大学病院」へ名称変更



2016.4

名称変更後、初の入職式



2016.9

リハビリテーション訓練室
2階へ移動



2016.10

救急センター開設



2017.4

手術ロボットda Vinci 使用開始



2017.12

多目的棟 使用開始



2018.2

採血室 移動・拡張



2019.1

検査部がISO 15189の認定を取得



2019.1

新大学病院棟 竣工式



2019.4

新大学病院棟 使用開始



2019.9

消化器内科外来 移動・内視鏡センター 拡張



2019.11

LDR新設・分娩取り扱い再開



2020.2

新型コロナウイルス感染症
予防ハンドブック発刊



2020.4

新型コロナウイルス感染症
ドライブスルー診察・検温チェック



2020.6

共用棟 運用開始(検査機能を拡張)



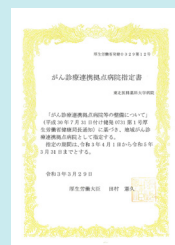
2021.3

新型コロナウイルス感染症ワクチン
医療従事者先行接種



2021.4

地域がん診療連携拠点病院 指定



2021.5

検温ゲート 設置



2022.11

外来化学療法センター 拡張



2022.11

仙台市消防局と合同の
総合防災訓練



2024.3

病院キャラクター誕生



患者さんにも投票していただきました

2025.10

透析室 増床



2025.12

病院機能評価一般病院3の認定を
取得(認定期間2025.4～)



2026.6

救急救命センター 指定



2026.4
東北医科薬科大学病院
10周年



データでみる この10年

2016年 2026年

1日平均外来患者数

773人 991人※

1日平均入院患者数

334人 496人※

診療科数

28科 32科

病床数

466床 588床

医師数

118人 304人

職員数

788人 1,330人

救急車搬送数

3,401件 5,061件※

手術件数

4,619件 5,589件※

※2025年度実績

新大学病院棟の建設記録

2017.12



2018.3



2018.5



2018.6



2018.8



2019.1





■健康保険宮城第一病院 1950年頃



■健康保険宮城第一病院 1960年頃



■社会保険宮城第一総合病院 移転新築工事 1980年頃



■保育器1990年頃



■屋外リハビリ訓練場 1990年頃

2011年3月11日
東日本大震災発生



■屋外での食事の準備 2011年3月12日



■避難の様子 2011年3月11日



■ナースステーション 2011年3月14日

1950

1955

1960

1965

1980

1982

1990

1992

2011

2013



■健康保険宮城第一病院 1955年



■社会保険宮城第一総合病院 1965年



■東北厚生年金病院 落成式 1982年



■東北厚生年金病院 増築工事 1992年



■東北薬科大学病院 除幕式 2013年

主な沿革

1946 年 5 月	宮城第一病院 開設（開設者：宮城県社会保険協会）
1950 年 5 月	健康保険宮城第一病院に名称変更
1965 年 7 月	社会保険宮城第一総合病院に名称変更
1973 年 4 月	健康保険病院から厚生年金病院へ所管換え
1982 年 10 月	現在地に新築移転 東北厚生年金病院に名称変更 病床数：350床（一般300床、精神42床、結核8床） 診療科：18科
1992 年 12 月	C病棟増築工事竣工
1993 年 4 月	C棟運用開始 150床増床
2000 年 4 月	日本医療機能評価機構認定病院 初回認定
2012 年 12 月	学校法人東北薬科大学が独立行政法人年金・健康保険福祉施設整理機構と東北厚生年金病院の譲り受けの契約を締結
2013 年 4 月	学校法人東北薬科大学が東北厚生年金病院より事業譲受 「東北薬科大学病院」開設（開設者：学校法人 東北薬科大学） 病床数：466床（一般369床、回復期リハビリテーション51床、精神46床） 標榜科：22科
2015 年 8 月	学校法人東北薬科大学に医学部医学科の設置認可
2016 年 4 月	「学校法人東北医科薬科大学」に法人名変更 「東北医科薬科大学病院」に病院名称変更（開設者：学校法人 東北医科薬科大学） 病床数：466床（一般420床、精神46床） 標榜科：28科 内科（総合診療科）、呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、腫瘍内科、糖尿病代謝内科、腎臓内分泌内科、神経内科、感染症内科、外科（消化器外科・肝胆膵外科）、呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺・内分泌外科、整形外科、精神科、血液・リウマチ科、小児科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、歯科口腔外科、麻酔科
2016 年 10 月	救急センターを開設
2017 年 2 月	電子カルテ開始
2017 年 4 月	緩和ケア内科（がん治療支援（緩和）科）を開設 外科を消化器外科に変更
2017 年 5 月	手術支援ロボット（da Vinci）導入
2017 年 7 月	肝臓・胆のう・膵臓外科（肝胆膵外科）を開設（外科より分離独立）
2018 年 4 月	脳神経外科、形成外科、ペインクリニック外科を開設 神経内科を脳神経内科に名称変更
2019 年 1 月	ISO 15189（臨床検査室－品質と能力に関する特定要求事項）取得 新大学病院棟 竣工
2019 年 4 月	新大学病院棟運用開始 88床増床 病床数：554床（一般508床、精神46床）
2019 年 5 月	産科診療を開始
2020 年 5 月	外科を標榜 ペインクリニック外科を閉鎖
2020 年 9 月	病床数変更 600床（一般554床、精神46床）
2025 年 4 月	糖尿病代謝内科を糖尿病代謝・内分泌内科に変更 腎臓内分泌内科を腎臓内科（腎臓・高血圧内科）に変更
2025 年 10 月	透析室増床等に伴い、12床減床 病床数：588床（一般542床、精神46床）
2026 年 6 月	救命救急センター指定 救急センターを救命救急センターに名称変更

歴代病院長

■東北医科薬科大学病院

近 藤 丘	2016年 4月～2022年 3月
佐 藤 賢 一	2022年 4月～2026年 3月
川 本 俊 輔	2026年 4月～

■東北薬科大学病院

田 林 晁 一	2013年 4月～2015年 3月
近 藤 丘	2015年 4月～2016年 3月

■宮城第一病院～東北厚生年金病院

伊 藤 祐	1946年 5月～1950年 3月
佐 藤 幸 三	1950年 4月～1952年 7月
伊 藤 益 次（代）	1952年10月～1957年 9月
林 雄 造	1957年10月～1964年 3月
鈴 木 芳 彦	1964年 4月～1973年 1月
小野寺 淳次郎（代）	1973年 1月～1974年 3月
鈴 木 千賀志	1974年 4月～1979年 7月
中 川 勲（代）	1979年 7月～1979年10月
杉 山 尚	1979年10月～1988年 4月
後 藤 由 夫	1988年 5月～1994年 3月
佐 藤 勝 朗（代）	1994年 4月～1994年 9月
田 中 元 直	1994年 9月～2000年 3月
藤 村 重 文	2000年 4月～2005年 3月
松 野 正 紀	2005年 4月～2010年 3月
田 林 晁 一	2010年 4月～2013年 3月

中長期計画

本学では「建学の精神」を踏まえ、将来を担う若手の教職員が中心となって、大学の運営体制や事業内容について大学としてあるべき将来像を目指して検討を行い、「中長期計画」（2020 年 4 月～ 2030 年 3 月）を策定しました。中長期計画では、本学の事業内容を「教育」「研究」「学生支援」「入学者選抜」「病院運営」「経営管理」の 6 つの領域に分け、各々の目標達成が最終的に中長期計画全体の目標達成に相乗的につながることを意図しています。

本学は創立以来、医療人材の育成に取り組んできましたが、現在の大学を取り巻く厳しい環境を全教職員が深く認識し、本計画を中心に全学一体となって努力し、社会に対し引き続き責務を果たして参ります。

【病院運営領域】＜基本目標＞

病院資源の効率の活用による診療の充実、高い診療能力・専門性・人間性を備えた医療人の育成、医薬融合による創造的な臨床研究の推進および経営基盤の強化を通して病院機能を向上させ、以って、東北の地域医療発展の推進役を担う。

1. 診療・経営	
行動目標	(1) がん診療・地域医療・救急医療・災害医療・超高齢者医療等の社会的要請に対応し、良質でかつシームレスな医療サービスを提供する。 (2) 医療の質と安全性の向上を推進するため、特定機能病院や第三者認証の取得を通じて医療安全・感染対策等に関わる取組・体制をさらに充実させる。 (3) 診療報酬改定、消費税の引き上げ、労働法制の改正など社会的変化に対応できるよう病院経営基盤を強化する。
行動計画	1) 本院・若林病院の相互の発展・両院の最大活用・両院の連携をさらに深め、両院のリソースを最大限に活用し、一体運営のもと収支改善を図る。 2) 戦略的な収益向上策とコスト管理手法の実践により、安定的な経営基盤を確立し医療環境を整備する。 3) がんゲノム連携病院として、がんゲノム医療を推進し先進的ながん医療を提供できる体制を構築する。 4) 特定機能病院もしくは日本医療機能評価機構認定病院の承認を目指し、その機能に応じた役割を果たすために診療・臨床研究の総合的な強化を進める。
2. 教育・研究	
行動目標	(1) 東北の地域医療に貢献し得る良質な医療人を育成するため、臨床教育・研修機関として大学病院の使命を果たす。 (2) 医薬の連携を強化し臨床研究分野において横断的、かつ融合的な協力関係を展開することにより、実用化も視野に、新しい独創的なアイデアを創出し、国内外で活躍できる研究者を養成する。
行動計画	【医学教育】 1) 医師の卒後教育として、臨床研修、専門医研修プログラムの拡充実を図る。(東北の地域医療を支える優秀な人材を育成し、定着できるよう支援する) 【薬学教育】 2) 附属病院における薬学臨床実習の充実とアドバンス薬学臨床実習の構築を図る。 3) 薬剤師の卒後教育および生涯研鑽の継続的な支援体制と卒後臨床研修プログラムを構築する。 4) 医療職及び事務職の人材育成として、院内の研修管理制度を確立する。 5) 看護部門の人材育成として、特定行為研修の充実を図る。 6) 臨床研究の推進
3. 社会貢献	
行動目標	(1) 医療・教育・研究に亘る大学病院の活動を社会に説明する。
行動計画	1) 災害拠点病院としての活動 2) 医師派遣機能の充実化を図り、地域医療体制強化を目指す。 3) 予防医学等活動の充実

概要

2026年4月1日現在			
開設者	学校法人東北医科薬科大学 理事長 高柳 元明		
名 称	東北医科薬科大学病院		
管理者	病院長 川本 俊輔		
所在地	宮城県仙台市宮城野区福室1丁目12番1号		
開設年月日	2013年4月1日		
病床数	588床（一般:542床、精神:46床）		
標榜診療科 （33標榜診療科）	内科	呼吸器外科	皮膚科
	呼吸器内科	心臓血管外科	泌尿器科
	循環器内科	消化器外科	産婦人科
	消化器内科	乳腺・内分泌外科	眼科
	腫瘍内科	整形外科	耳鼻咽喉科
	糖尿病代謝・内分泌内科	脳神経外科	リハビリテーション科
	腎臓内科	形成外科	放射線科
	脳神経内科	肝臓・胆のう・膵臓外科	病理診断科
	感染症内科	精神科	救急科
	緩和ケア内科	血液・リウマチ科	歯科口腔外科
	外科	小児科	麻酔科
土地・建物	敷地面積 :36,438.03㎡ 建物面積 :43,802.49㎡		

職員数	医師	215	臨床工学技士	29
	専攻医	63	歯科衛生士	5
	臨床研修医	29	歯科技工士	1
	歯科医師	4	管理栄養士	22
	薬剤師	44	栄養士	3
	診療放射線技師	39	看護師	640
	臨床検査技師	59	福祉職	13
	理学療法士	22	事務職	90
	作業療法士	14	技能職	28
	視能訓練士	5	その他	1
	言語聴覚士	5	合 計	1,331

組織図

2026年6月1日現在



附属病院附属施設

教育連携センター 卒後研修支援センター	臨床研究推進センター 地域医療総合支援センター	医療情報センター
------------------------	----------------------------	----------

役職員

2026年6月1日現在

管理職			
病院長	川本 俊輔	病院長補佐	吉村 成央
副病院長	中島 一郎	病院長補佐	森 建文
副病院長	山田 隆之	看護部長	鈴木 まゆみ
副病院長	遠藤 俊毅	薬剤部長	岡田 浩司
副病院長	廣田 衛久	事務部長	富田 有一
副病院長	玉田 勉		

診療科				
総合診療科	科長	菅野 厚博	形成外科	科長 權太 浩一
呼吸器内科	科長	玉田 勉	肝胆脾外科	科長 片寄 友
循環器内科	科長	熊谷 浩司	精神科	科長 中川 誠秀
消化器内科	科長	佐藤 賢一	血液・リウマチ科	科長 石井 智徳
腫瘍内科	科長	下平 秀樹	小児科	科長 森本 哲司
糖尿病代謝・内分泌内科	科長	澤田 正二郎	皮膚科	科長 池田 高治
腎臓・高血圧内科	科長	森 建文	泌尿器科	科長 海法 康裕
脳神経内科	科長	中島 一郎	産婦人科	科長 徳永 英樹
感染症内科	科長	遠藤 史郎	眼科	科長 高橋 秀肇
がん治療支援（緩和）科	科長	児山 香	耳鼻咽喉科	科長 太田 伸男
呼吸器外科	科長	新井川 弘道	リハビリテーション科	科長 小川 佳子
心臓血管外科	科長	川本 俊輔	放射線科	科長 山田 隆之
消化器外科	科長	中野 徹	病理診断科	科長 藤島 史喜
乳腺・内分泌外科	科長	鈴木 昭彦	救急・集中治療科	科長 遠藤 智之
整形外科	科長	菅野 晴夫	麻酔科	科長 黒澤 伸
脳神経外科	科長	遠藤 俊毅	歯科口腔外科	科長 宮下 仁

部門

医療安全管理部	部長	手塚 則明	輸血部	部長	高橋 伸一郎
感染制御部	部長	遠藤 史郎	光学診療部	部長	廣田 衛久
薬剤部	部長	岡田 浩司	集中治療部	部長	遠藤 智之
看護部	部長	鈴木 まゆみ	血液浄化療法部	部長	森 建文
	副部長	松木 恵子	遺伝子診療部	部長	下平 秀樹
	副部長	石井 友恵	救命救急センター	センター長	遠藤 智之
	副部長	斉藤 みさ江	高次脳機能障害支援センター	センター長	鈴木 匡子
放射線部	部長	山田 隆之	認知症疾患医療センター	センター長	藤盛 寿一
検査部	部長	高橋 伸一郎	外来化学療法センター	センター長	下平 秀樹
病理部	部長	藤島 史喜	アレルギーセンター	センター長	太田 伸男
リハビリテーション部	部長	伊藤 修	摂食・嚥下支援センター	センター長	小川 佳子
	部長（視能訓練）	高橋 秀肇	褥瘡管理センター	センター長	權太 浩一
臨床工学部	部長	新井川 弘道	栄養支援センター	センター長	澤田 正二郎
歯科衛生・技工部	部長	宮下 仁	診療支援センター	センター長	中島 一郎
栄養管理部	部長	児山 香	患者支援・医療連携センター	センター長	森 建文
手術部	部長	黒澤 伸	事務部	部長	富田 有一

附属病院附属施設				
教育連携センター	センター長	澤田 正二郎	地域医療総合支援センター	センター長 菅野 厚博
卒後研修支援センター	センター長	廣田 衛久	医療情報センター	センター長 大佐賀 敦
臨床研究推進センター	センター長	渡部 洋		

主な指定医療

		2026年6月1日現在	
名称	指定年月日	名称	指定年月日
災害拠点病院	1997 年　3月 31 日	原子力災害医療協力機関	2018 年　1月　1 日
宮城県救急告示病院	2000 年 10月 10 日	地域がん診療連携拠点病院	2021 年　4月　1 日
高次脳機能障害支援拠点病院	2006 年　5月　1 日	宮城県難病地域拠点病院	2022 年　1月 26 日
地域医療支援病院	2006 年 11月 15 日	宮城県難病診療分野別拠点病院（血液・免疫）	2022 年　1月 26 日
宮城県災害派遣医療チーム（宮城 DMAT）指定病院	2009 年　3月 19 日	がんゲノム医療連携病院	2023 年 12月　1 日
仙台市認知症疾患医療センター	2010 年　4月　1 日	宮城県第三次救急医療機関（救命救急センター）	2026 年　6月　1 日

施設基準届出状況 等

■施設基準届出状況 基本診療料

初診料（歯科）の注 1 に掲げる基準
歯科外来診療医療安全対策加算 1
歯科外来診療感染対策加算 1
一般病棟入院基本料（急性期病院 A 一般入院料（7 対 1））
精神病棟入院基本料（急性期病院 A 精神病棟入院料）
精神病棟看護・多職種協働加算（13 対 1） 重度認知症加算
電子的診療情報連携体制整備加算 3
電子的歯科診療情報連携体制整備加算 2
急性期総合体制加算 1
救急医療管理加算
超急性期脳卒中加算
診療録管理体制加算 1
医師事務作業補助体制加算 1（15 対 1）
急性期看護補助体制加算（看護補助者 5 割以上）（25 対 1）
看護職員夜間 12 対 1 配置加算 1
電子的診療情報連携体制整備加算 1
看護補助加算 2（50 対 1） 看護補助体制充実加算 1
療養環境加算
重症者等療養環境特別加算
無菌治療室管理加算 1
無菌治療室管理加算 2
放射線治療病室管理加算（治療用放射性同位元素による場合）
緩和ケア診療加算
精神病棟入院時医学管理加算

■施設基準届出状況 特掲診療料

外来栄養食事指導料の注 2 に規定する基準
心臓ペースメーカー指導管理料の注 5 に規定する遠隔モニタリング加算
糖尿病合併症管理料
がん性疼痛緩和指導管理料
がん患者指導管理料イ
がん患者指導管理料ロ
がん患者指導管理料ハ
移植後患者指導管理料（臓器移植後）
糖尿病透析予防指導管理料
小児運動器疾患指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料
婦人科特定疾患治療管理料
腎代替療法指導管理料
二次性骨折予防継続管理料 1

		2026年6月1日現在	
名称	指定年月日	名称	指定年月日
原子力災害医療協力機関	2018 年　1月　1 日	地域がん診療連携拠点病院	2021 年　4月　1 日
宮城県難病地域拠点病院	2022 年　1月 26 日	宮城県難病診療分野別拠点病院（血液・免疫）	2022 年　1月 26 日
がんゲノム医療連携病院	2023 年 12月　1 日	宮城県第三次救急医療機関（救命救急センター）	2026 年　6月　1 日

2026年6月現在
精神科身体合併症管理加算
精神科リエゾンチーム加算
精神科慢性身体合併症管理加算
栄養サポートチーム加算
医療安全対策加算 1　医療安全対策地域連携加算 1
感染対策向上加算 1　指導強化加算　微生物学的検査体制加算
患者サポート体制充実加算
褥瘡ハイリスク患者ケア加算
ハイリスク妊娠管理加算
呼吸ケアチーム加算
術後疼痛管理チーム加算
地域支援・医薬品供給対応体制加算 1
病棟薬剤業務実施加算 2 注 2 に規定する薬剤業務向上加算
病棟薬剤業務実施加算 3
データ提出加算 2・4
入退院支援加算 1　地域連携診療計画加算 入院時支援加算
認知症ケア加算 2
せん妄ハイリスク患者ケア加算
地域医療体制確保加算 2
医療提供機能連携確保加算
特定集中治療室管理料 2　早期離床・リハビリテーション加算
早期栄養介入管理加算
入院時食事療養／生活療養（Ⅰ）

2026年6月現在
二次性骨折予防継続管理料 3
下肢創傷処置管理料
慢性腎臓病透析予防指導管理料
救急外来医学管理料の注 7 に規定する院内トリアージ実施体制加算
救急外来医学管理料 1 及び同注 3 に規定する救急外来緊急検査対応加算 1
夜間休日救急搬送医学管理料の注 3 に規定する救急搬送看護体制加算 1
外来放射線照射診療料
外来腫瘍化学療法診療料 1
連携充実加算
がん薬物療法体制充実加算
ニコチン依存症管理料
療養・就労両立支援指導料の注 3 に規定する相談支援加算
開放型病院共同指導料
がん治療連携計画策定料

2026年6月現在
肝炎インターフェロン治療計画料
薬剤管理指導料
医療機器安全管理料 1
医療機器安全管理料 2
歯科治療時医療管理料
在宅自己腹膜灌流指導管理料 2
在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注 2 に規定する遠隔モニタリング加算
在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注 2 に規定する持続陽圧呼吸療法充実管理体制加算
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合）及び皮下連続式 グルコース測定
持続血糖測定器加算（間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合）
遺伝学的検査注 1 に規定する施設基準
骨髓微小残存病変量測定
BRCA1/2 遺伝子検査
がんゲノムプロファイリング検査
先天性代謝異常症検査
抗アデノ随伴ウイルス 9 型（AAV9）抗体
抗 HLA 抗体（スクリーニング検査）及び抗 HLA 抗体（抗体特異性同定検査）
HPV 核酸検出及び HPV 核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（SARS-CoV-2 核酸検出を含まないもの）
ウイルス・細菌核酸及び薬剤耐性遺伝子多項目同時検出
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出（髄液）
検体検査管理加算（Ⅳ）
国際標準検査管理加算
遺伝性疾患療養指導管理料の注 1 から注 3 までに規定する施設基準
遺伝性疾患療養指導管理料の注 5 に規定する施設基準
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
ヘッドアップディスプレイ試験
神経学的検査
補聴器適合検査
ロービジョン検査判断料
コンタクトレンズ検査料 1
小児食物アレルギー負荷検査
内服・点滴誘発試験
精密触覚機能検査
画像診断管理加算 2
CT 撮影及び MRI 撮影
冠動脈 CT 撮影加算
心臓 MRI 撮影加算
乳房 MRI 撮影加算
小児鎮静下 MRI 撮影加算
全身 MRI 撮影加算
抗悪性腫瘍剤処方管理加算
外来化学療法加算 1
無菌製剤処理料
心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
がん患者リハビリテーション料
集団コミュニケーション療法料
歯科口腔リハビリテーション料 2
通院・在宅精神療法の注 8 に規定する療養生活継続支援加算

2026年6月現在
通院・在宅精神療法の注 9 に規定する心理支援加算
通院・在宅精神療法の注 10 に規定する児童思春期支援指導加算 1
通院・在宅精神療法の注 13 の施設基準
抗精神病特定薬剤治療指導管理料（治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。）
医療保護入院等診療料
多血小板血漿処置
硬膜外自家血注入
エタノールの局所注入（甲状腺）
エタノールの局所注入（副甲状腺）
人工腎臓
導入期加算 2 及び腎代替療法実績加算
透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
腎代替療法診療体制充実加算
難治性高コレステロール血症に伴う重度尿蛋白を呈する糖尿病性腎症に対する LDL アフェレシス療法
移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法
ストーマ合併症加算
歯科技工士連携加算 1 及び光学印象歯科技工士連携加算
CAD/CAM 冠及び CAD/CAM インレー
歯科技工加算 1 及び 2
組織拡張器による再建手術（乳房（再建手術）の場合に限る。）
緊急整復固定加算及び緊急挿入加算
骨移植術（軟骨移植術を含む。）（自家培養軟骨移植術に限る。）
後縦靱帯骨化症手術（前方進入によるもの）
椎間板内酵素注入療法
腫瘍脊椎骨全摘術
緊急穿頭血腫除去術
内視鏡下脳腫瘍生検術及び内視鏡下脳腫瘍摘出術
癒着性脊髄くも膜炎手術（脊髄くも膜剥離操作を行うもの）
脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
角結膜悪性腫瘍切除術
緑内障手術（緑内障治療用インプラント挿入術（プレートのあるもの））
緑内障手術（緑内障手術（流出路再建術（眼内法）及び水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術）
緑内障手術（濾過胞再建術（needle 法））
網膜再建術
人工中耳植込術
植込型骨導補聴器（直接振動型）植込術、人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導 補聴器交換術
鏡視下咽頭悪性腫瘍手術（軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。）
鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）
ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）
乳腺悪性腫瘍ラジオ波焼灼療法
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺切除術（区域切除及び肺葉切除術又は 1 肺葉を超えるものに限る。）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（区域切除で内視鏡支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（肺葉切除又は 1 肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術（気管支形成を伴う肺切除）
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
食道縫合術（穿孔、損傷）（内視鏡によるもの）、内視鏡下胃、十二指腸穿孔 瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術（内視鏡によるもの）、等
経皮的冠動脈形成術（特殊カテーテルによるもの）

患者・診療等の状況

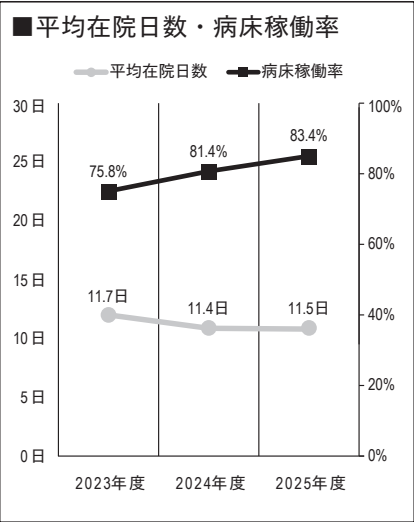
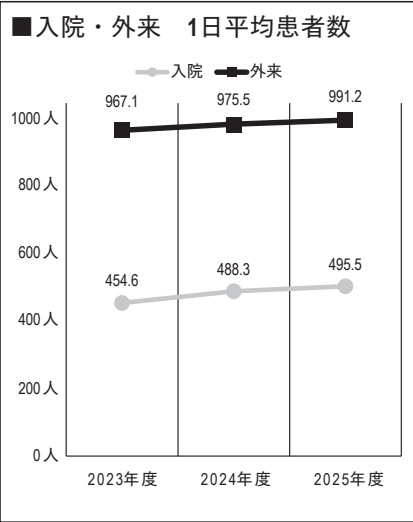
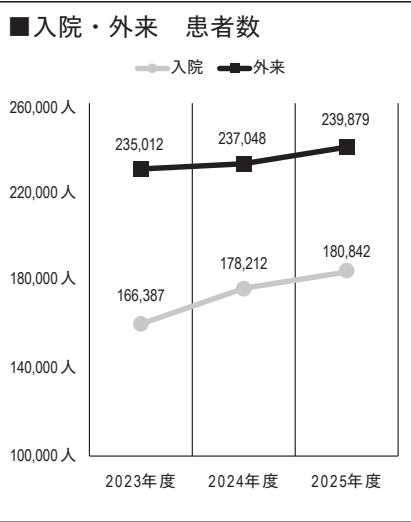
■診療科別患者数					2025 年度（単位：人）
診療科	外来患者延べ人数	1 日平均 外来患者数	入院患者 延べ人数	1 日平均 入院患者数	
総合診療科	3,015	12.5	5,053	13.8	
呼吸器内科	9,919	41.0	8,053	22.1	
循環器内科	11,202	46.3	11,850	32.5	
消化器内科	25,073	103.6	18,930	51.9	
腫瘍内科	5,368	22.2	5,464	15.0	
糖尿病代謝・内分泌内科	21,426	88.5	4,156	11.4	
腎臓・高血圧内科	9,070	37.5	15,342	42.0	
脳神経内科	8,243	34.1	9,814	26.9	
感染症内科	692	2.9	21	0.1	
がん治療支援（緩和）科	1,601	6.6	1,295	3.5	
呼吸器外科	3,541	14.6	4,477	12.3	
心臓血管外科	2,526	10.4	4,933	13.5	
消化器外科	5,166	21.3	7,462	20.4	
乳腺・内分泌外科	3,848	15.9	1,406	3.9	
整形外科	9,509	39.3	17,032	46.7	
脳神経外科	2,677	11.1	4,875	13.4	
形成外科	2,739	11.3	2,159	5.9	
肝胆膵外科	1,997	8.3	4,141	11.3	
精神科	12,589	52.0	11,357	31.1	
血液・リウマチ科	16,089	66.5	12,742	34.9	
小児科	8,113	33.5	2,033	5.6	
皮膚科	10,144	41.9	2,152	5.9	
泌尿器科	10,030	41.4	6,118	16.8	
産科	1,677	6.9	1,364	3.7	
婦人科	5,319	22.0	2,954	8.1	
眼科	12,772	52.8	4,973	13.6	
耳鼻咽喉科	13,938	57.6	5,279	14.5	
リハビリテーション科	1,358	5.6	787	2.2	
放射線科	6,352	26.2	0	0.0	
救急・集中治療科	4,601	19.0	4,207	11.5	
歯科口腔外科	9,285	38.4	413	1.1	
合計	239,879	991.2	180,842	495.5	
外来診療日数・暦日	242 日		365 日		

胸腔鏡下弁形成術
胸腔鏡下弁置換術
弁置換術（大動脈弁、僧帽弁及び中心線維体の再建を含むものに限る。）
経カテーテル弁置換術（経心尖大動脈弁置換術及び経皮的動脈弁置換術）
不整脈手術 左心耳閉鎖術（経カテーテル的手術によるもの）
経皮的中隔心筋焼灼術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
両心室ペースメーカー移植術（心筋電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（心筋電極の場合）
両心室ペースメーカー移植術（経静脈電極の場合）及び両心室ペースメーカー交換術（経静脈電極の場合）
植込型除細動器移植術（心筋リードを用いるもの）及び植込型除細動器交換術（心筋リードを用いるもの）
植込型除細動器移植術（経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの）、植込型除細動器交換術（その他のもの）及び経静脈電極拔去術
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（心筋電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（心筋電極の場合）
両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術（経静脈電極の場合）及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術（経静脈電極の場合）
大動脈バルーンパンピング法（IABP 法）
経皮的循環補助法（ポンプカテーテルを用いたもの）
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（傍大動脈）
腹腔鏡下リンパ節群郭清術（側方）
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下十二指腸局所切除術（内視鏡処置を併施するもの）
骨盤内悪性腫瘍及び腹腔内軟部腫瘍ラジオ波焼灼療法
腹腔鏡下胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
腹腔鏡下噴門側胃切除術（単純切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下噴門側胃切除術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
腹腔鏡下胃全摘術（単純全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合））及び腹腔鏡下胃全摘術（悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの））
バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術（胆嚢床切除を伴うもの）
胆管悪性腫瘍手術（膵頭十二指腸切除及び肝切除（葉以上）を伴うものに限る。）
腹腔鏡下肝切除術（部分切除及び外側区域切除）、亜区域切除、1 区域切除（外側区域切除を除く。）、2 区域切除及び3 区域切除以上のもの
腹腔鏡下膵腫瘍摘出術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
内視鏡的小腸ポリープ切除術
腹腔鏡下直腸切除・切断術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）及び腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下腎盂形成手術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
膀胱水圧拡張術及びハンナ型間質性膀胱炎手術（経尿道）
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
尿道狭窄グラフト再建術

■先進医療承認状況

2026年6月現在		
名称	承認日	実施診療科
アスピリン経口投与療法 家族性大腸腺腫症	2024 年 7 月 1 日	消化器内科

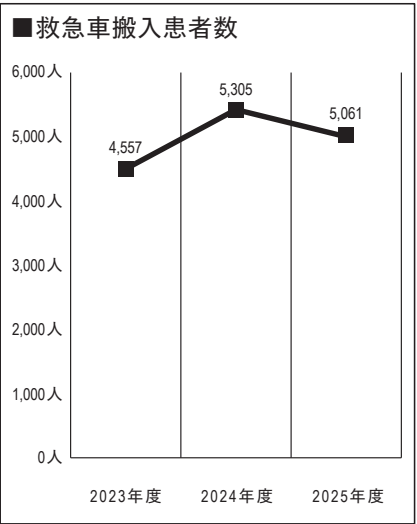
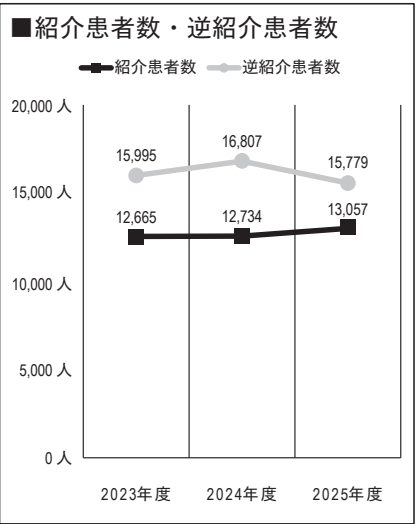
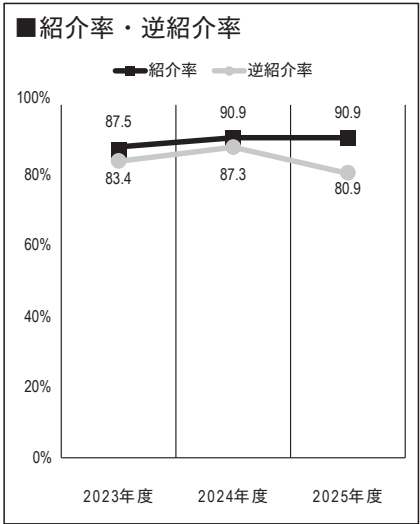
人工尿道括約筋植込・置換術
精巣温存手術
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術（内視鏡手術用支援機器を用いるもの）
腹腔鏡下腔式子宮全摘術（内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
子宮悪性腫瘍手術（子宮悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算 1 又は子宮悪性腫瘍センチネルリンパ節生検加算 2 を算定する場合に限る。）
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がんに対して内視鏡手術用支援機器を用いる場合）
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮体がん）
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術（子宮頸がん）
腹腔鏡下子宮癌痕部修復術
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 16 に掲げる手術（胃瘻造設術）
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 19 に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する乳房切除術に限る。）
医科点数表第 2 章第 10 部手術の通則の 19 に掲げる手術（遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対する子宮付属器腫瘍摘出術）
周術期栄養管理実施加算
外科医療確保特別加算
輸血管理料Ⅱ
自己生体組織接着剤作成術
同種クリオプレシビート作製術
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
麻酔管理料（Ⅰ）
麻酔管理料（Ⅱ）
周術期薬剤管理加算
放射線治療専任加算
外来放射線治療加算
高エネルギー放射線治療
一回線量増加加算（全乳房照射・前立腺照射）
強度変調放射線治療（IMRT）
画像誘導放射線治療（IGRT）
体外照射呼吸性移動対策加算
定位放射線治療
定位放射線治療呼吸性移動対策加算（その他のもの）
保険医療機関間の連携による病理診断
病理診断管理加算 2
悪性腫瘍病理組織標本加算
口腔病理診断管理加算 1
看護職員処遇改善評価料 73
外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）
外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）の注 5
歯科外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）
歯科外来・在宅ベースアップ評価料（Ⅰ）の注 5
入院ベースアップ評価料 171
クラウン・ブリッジ維持管理料
通院対象者通院医学管理料
酸素の購入単価



■紹介率・逆紹介率

2025 年度	
紹介率	90.9%
逆紹介率	80.9%
紹介患者数（初診）	13,057
逆紹介患者数	15,779
救急車搬入患者数	5,061

※紹介・逆紹介率は地域医療支援病院計算方式で算定しており、救急搬送数や受託検査数等を含めていません。
※逆紹介患者数は診療情報提供書料算定件数



■地域別登録医療機関数・医療連携実績

地域	施設数	紹介患者数	割合	逆紹介患者数	割合
仙台市宮城野区	134	4,162	22.7%	4,487	19.9%
仙台市青葉区	176	1,291	7.1%	2,143	9.5%
仙台市若林区	96	2,181	11.9%	2,308	10.2%
仙台市太白区	78	469	2.6%	651	2.9%
仙台市泉区	81	541	3.0%	656	2.9%
塩釜市	43	2,149	11.7%	2,439	10.8%
多賀城市	50	2,785	15.2%	3,560	15.8%
七ヶ浜町	7	159	0.9%	228	1.0%
利府町	23	1,017	5.6%	1,032	4.6%
松島町	6	472	2.6%	451	2.0%
県南地区	91	788	4.3%	1,139	5.1%
県北地区	125	1,185	6.5%	1,590	7.1%
県外	16	358	2.0%	447	2.0%
無登録	-	739	4.0%	1,412	6.3%
合計	926	18,296		22,543	

※施設数は2026年6月現在、患者数は2025年度の実績

■医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6に掲げる手術

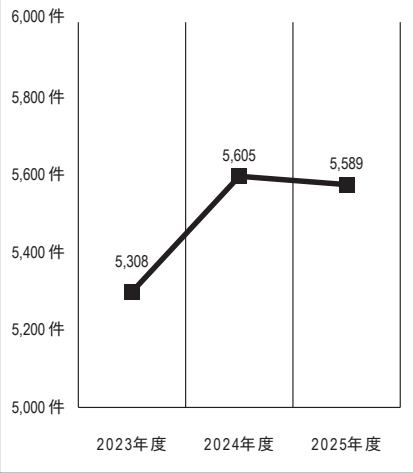
2025年1月1日～12月31日		
区分	手術分類	件数
区分 1	ア：頭蓋内腫瘍摘出術等	45
	イ：黄斑下手術等	580
	ウ：鼓室形成手術等	11
	エ：肺悪性腫瘍手術等	95
	オ：経皮的カテーテル心筋焼灼術、肺静脈隔離術	286
区分 2	ア：靱帯断裂形成手術等	20
	イ：水頭症手術等	25
	ウ：鼻副鼻腔悪性腫瘍手術等	2
	エ：尿道形成手術等	6
	オ：角膜移植術	0
	カ：肝切除術等	47
	キ：子宮附属器悪性腫瘍手術等	13
	ア：上顎骨形成術等	2
	イ：上顎骨悪性腫瘍手術等	5
	ウ：パセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）	4
区分 3	エ：母指化手術等	0
	オ：内反足手術等	0
	カ：食道切除再建術等	3
	キ：同種死体腎移植術等	0

区分	手術分類	件数
区分 4		790
その他の区分	ア：人工関節置換術	63
	イ：乳児外科施設基準対象手術	0
	ウ：ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	70
	エ：冠動脈、大動脈バイパス移植術（人工心肺を使用しないものを含む。）及び体外循環を要する手術	175
	オ：経皮的冠動脈形成術	14
	・急性心筋梗塞に対するもの	0
	・不安定狭心症に対するもの	4
	・その他のもの	10
	経皮的冠動脈粥腫切除術	3
	経皮的冠動脈ステント留置術	95
	・急性心筋梗塞に対するもの	11
	・不安定狭心症に対するもの	32
	・その他のもの	52

■手術部手術件数

2025 年度	
診療科	件数
循環器内科	17
腎臓・高血圧内科	188
脳神経内科	6
呼吸器外科	176
心臓血管外科	358
消化器外科	639
乳腺・内分泌外科	85
整形外科	669
脳神経外科	193
形成外科	180
肝胆膵外科	287
皮膚科	5
泌尿器科	275
婦人科	165
産科	32
眼科	1,964
耳鼻咽喉科	333
放射線科	2
歯科口腔外科	15
合計	5,589

■手術部手術件数



■指定難病実患者数

2025 年度（単位：人）	
実患者数	合計
うち上位 10 位 疾患名	
全身性エリテマトーデス	301
潰瘍性大腸炎	212
多発性硬化症／視神経脊髄炎	196
皮膚筋炎／多発性筋炎	179
シェーグレン症候群	155
パーキンソン病	154
好酸球性副鼻腔炎	126
全身性強皮症	95
混合性結合組織病	86
顕微鏡的多発血管炎	78

■分娩数

2025 年	
経陰分娩	78
帝王切開	30
総分娩件数	108

■院内がん登録 部位別登録件数

2025 年 1 月～ 12 月	
部位	登録件数
大腸	275
乳房	193
胃	188
肺	187
白血病及び造血器疾患	160
前立腺	99
脾臓	80
脳・中枢神経系	73
膀胱	50
その他の部位	358
合計	1,663

■臨床検査件数

2025 年度		
検査		件数
一般検査	尿定性・定量検査	107,611
	尿沈渣顕微鏡検査	36,109
	糞便検査	1,121
	穿刺液検査など	505
	小 計	145,346
血液学的検査	形態学的検査	238,699
	凝固学的検査	124,286
	その他	50,569
	小 計	413,554
生化学的検査	血液化学検査	2,414,997
	負荷試験など	167
	小 計	2,415,164
免疫血清検査	感染症血清反応	62,068
	免疫血液検査	16,290
	自己抗体検査など	146,512
	小 計	224,870
微生物学的検査	一般細菌培養・同定検査	42,964
	抗酸菌検査	4,159
	細菌特殊検査	1,343
	小 計	48,466
生理機能検査	心電図検査	26,474
	超音波検査	18,105
	脳波検査	1,033
	呼吸機能検査	5,333
	聴力・その他	8,623
	小 計	59,568

■血液製剤使用数

2025 年度	
	合計
照射赤血球 -LR（単位）	5,246
新鮮凍結血漿 -LR（単位）	2,504
照射濃厚血小板 -LR（単位）	7,195
自己血全血（単位）	101
自己血 MAP（単位）	22
自己フィブリン糊（本）	21

※ 1 単位 = 200ml 換算

■外来化学療法実施件数

2025 年度	
院内登録レジメン数	392
実施件数（延べ）	5,432

※外来化学療法室における抗がん剤投与の延べ件数（外来化学療法加算の算定無を含む）

■放射線撮影・検査・治療件数

2025 年度		
項目		件数
単純撮影	胸、腹部	35,431
	骨	9,265
	乳房	788
	歯科系	1,380
	ポータブル	15,016
	骨密度	1,499
	その他	2,971
	計	66,350
造影撮影	消化管系（胃・腸等）	708
	肝胆膵系	508
	呼吸器・整形・婦人	207
	その他	856
	計	2,279
血管撮影	心臓	853
	腹部・その他	196
	計	1,049
CT	単純	19,825
	造影	9,104
	計	28,929
MRI	単純	7,969
	造影	1,497
	計	9,466
RI 検査		1,397
放射線治療	照射件数	6,464
	延べ患者数	338

■内視鏡検査・治療件数

2025 年度		
項目		件数
上部内視鏡	検査	6,186
	治療	1,337
	合計	7,523
下部内視鏡	検査	2,458
	治療	1,130
	合計	3,588
上部・下部総件数		11,111
気管支鏡		93

■リハビリテーション件数

2025 年度				
疾患別単位数	理学療法	作業療法	言語療法	計
脳血管疾患	11,046	10,290	6,001	27,337
運動器疾患	12,232	8,490		20,722
呼吸器疾患	7,717	5,220	1,707	14,644
心大血管疾患	8,738	1,789		10,527
廃用症候群	11,934	9,112	1,152	22,198
がん	2,335	1,214	170	3,719
合計	54,002	36,115	9,030	99,147
早期離床・リハ実施件数		840		

■処方枚数・件数・剤数、服薬指導件数 等

2025 年度			
項 目			合計
内服・外用処方箋	外来	処方箋枚数	2,605
		処方件数	5,077
		延調剤数	56,942
	入院	処方箋枚数	130,533
		処方件数	321,266
注射処方箋	外来	延調剤数	2,202,843
		処方箋枚数	46,886
		処方件数	71,265
	入院	薬品本数	140,533
		処方箋枚数	194,668
		処方件数	454,499
麻薬業務	外来	薬品本数	807,282
		処方箋枚数	2,182
		処方件数	8,757
	入院	剤数	13,978
		剤数	1,253
		処方箋枚数	12,894
注射薬無菌混合数	剤数	剤数	62,544
		剤数	62,544
抗がん薬無菌調製	枚数		2,043
	件数		2,135
	無菌加算件数	総数	7,450
		うち外来	5,298
		外来（％）	71
	調製件数	総数	26,150
		うち抗がん剤	12,704
		剤数	71,212
服薬指導件数	1 日平均無菌件数		30
	1 日平均調製件数		106
	入院時指導		16,896
	外来時確認		5,872
	退院時指導		3,867

■病理診断件数

2025 年度	
組織診断	6,776
術中迅速診断（組織診）	359
術中迅速診断（細胞診）	107
細胞診断	3,469

■病理解剖件数

2025 年度	
死亡患者数	311
剖検数	10
剖検率	3.2％

■患者給食

2025 年度	
区分	食数
標準治療食	205,842
特別加算食	153,766
加算外特別食	69,473
合計	429,081

■相談件数

2025 年度（単位：件）	
相談支援センター	2,129
うち がん相談	452
相談・調整介入患者数	24,872
相談延件数	27,001

社会連携活動の状況

■市民を対象とした講演会等【当院主催】

	内容	開催日
1	市民公開講座 肺がんは治る時代です	2025 年 5 月 22 日
2	市民公開講座 そのお口の中の病気、だいじょうぶ？	2025 年 8 月 18 日
3	市民公開講座 こんなときどうする？～自分の身を守るために気象情報・避難情報を知っておこう	2025 年 11 月 18 日
4	市民公開講座 花粉症重症化ゼロ作戦	2026 年 1 月 22 日

■地域の医療従事者を対象とした研修会等【当院主催・共催】

	内容	開催日
1	宮城県緩和ケア研修会	2025 年 9 月 6 日
2	NST 専門療法士認定制度 認定教育施設 臨床実地修練（当院実施・研修施設）	2025 年 10 月 6 日～10 月 10 日
3	腎代替療法講演会（当院共催）	2025 年 7 月 11 日
4	第 1 回薬薬連携研修会	2025 年 9 月 17 日
5	第 2 回薬薬連携研修会	2026 年 3 月 18 日
6	宮城県高次脳機能障害者支援普及事業 第 1 回専門研修会（県事業・当院実施）専門研修会	2025 年 11 月 8 日
7	宮城県高次脳機能障害者支援普及事業 第 2 回専門研修会（県事業・当院実施）専門研修会	2025 年 12 月 13 日
8	がん診療連携講演会	2025 年 12 月 23 日
9	東北医科薬科大学病院・登米NPプロジェクト・石巻NPプロジェクト合同 シンポジウム（当院共催）	2026 年 3 月 8 日
10	日本腹膜透析医学会 腹膜透析教育研修（研修施設）	2025 年度 5 回実施

■地域連携活動（医療安全）

	団体・施設名	内容	日付
1	金沢医科大学病院	日本私立医科大学協会 医療安全・感染対策に関する相互ラウンド（受審）	2025 年 10 月 14 日
2	金沢医科大学病院	日本私立医科大学協会 医療安全・感染対策に関する相互ラウンド（訪問）	2025 年 11 月 11 日
3	仙台整形外科病院	医療安全対策地域連携施設 訪問評価	2025 年 10 月 17 日
4	JCHO 仙台病院	医療安全対策地域連携施設 相互評価（訪問）	2026 年 2 月 18 日
5	JCHO 仙台病院	医療安全対策地域連携施設 相互評価（受審）	2026 年 3 月 18 日

■地域連携活動（感染対策）

	団体・施設名	内容	日付
1	金沢医科大学病院	日本私立医科大学協会 医療安全・感染対策に関する相互ラウンド（受審）	2025 年 10 月 14 日
2	金沢医科大学病院	日本私立医科大学協会 医療安全・感染対策に関する相互ラウンド（訪問）	2025 年 11 月 11 日
3	仙台オープン病院	感染対策相互評価カンファレンス（受審）	2025 年 5 月 20 日
4	仙台オープン病院	感染対策相互評価カンファレンス（訪問）	2025 年 6 月 3 日
5	仙台市保健所	感染対策合同机上訓練への参加	2026 年 1 月 27 日
6	仙塩総合病院 仙台循環器病センター 東北医科薬科大学若林病院 M&T 総合クリニック福島 あらい内科・胃腸内科クリニック 緑の里クリニック 卸町えきまえクリニック 仙台市保健所 宮城県医師会	院内感染対策に関する合同カンファレンス	2025 年度全 4 回 2025 年 6 月 10 日 2025 年 9 月 8 日 2025 年 12 月 9 日 2026 年 3 月 9 日
7	東北医科薬科大学若林病院	実地指導（院内感染対策に関する助言・指導）	2025 年 8 月 29 日
8	仙塩総合病院	実地指導（院内感染対策に関する助言・指導）	2025 年 10 月 3 日
9	緑の里クリニック	実地指導（院内感染対策に関する助言・指導）	2025 年 11 月 14 日
10	仙台循環器病センター	実地指導（院内感染対策に関する助言・指導）	2025 年 11 月 26 日

■地域連携活動（災害医療）

	団体・施設名	内容	日付
1	海上保安庁	大型旅客船事故対応訓練 参加	2025 年 6 月 5 日
2	宮城県	DHCoS（災害時病院対応と病院籠城支援）シミュレーション 参加	2025 年 6 月 11 日
3	宮城県	「みやぎ県民防災の日」総合防災訓練 運営協力・参加	2025 年 6 月 11 日
4	内閣府	大規模地震時医療活動訓練 企画協力・運営協力・参加	2025 年 9 月 6 日
5	仙台空港緊急計画連絡協議会	仙台空港航空機事故対処総合訓練 参加	2025 年 10 月 16 日
6	仙台医療センター	仙台医療センター総合防災訓練 評価者	2025 年 11 月 20 日
7	宮城県	宮城県災害拠点病院連絡協議会・宮城 DMAT 連絡協議会・宮城県災害医療コーディネーター意見交換会合同会議 参加	2026 年 1 月 29 日
8	厚生労働省	全国災害拠点病院連絡会議 参加	2026 年 3 月 20 日
9	宮城 DMAT 連絡協議会	宮城 DMAT ロジ部会通信訓練 企画・運営・参加	2025 年度 4 回実施

■行政機関等への研修講師派遣

	団体・施設名	内容	日付
1	宮城県仙台二華高等学校	宮城県がん教育外部講師派遣事業	2026 年 1 月 21 日
2	東松島市立矢本第二中学校	宮城県がん教育外部講師派遣事業	2026 年 1 月 27 日
3	東北厚生局	医療安全ワークショップ	2025 年 11 月 21 日
4	公益社団法人山形県看護協会	医療安全管理者養成研修	2025 年 9 月 29 日
5	厚生労働省	日本 DMAT 隊員養成研修	2026 年 1 月 17 ～1 月 19 日
6	厚生労働省	日本 DMAT 技能維持研修	2025 年度 3 回実施
7	宮城県	宮城県災害医療技能研修会	2025 年 12 月 11 ～12 月 12 日
8	宮城県・仙台市	宮城県高次脳機能障害者支援者養成研修会	2025 年 5 月 30 日
9	気仙沼保健所	高次脳機能障害者支援者研修会	2025 年 11 月 12 日
10	塩釜保健所	高次脳機能障害者支援者研修会	2025 年 11 月 25 日

（主に行政機関・公的機関等からの研修会等への講師依頼。大学業務・講演は除く）

フロアガイド

本館		新館	
6F	6A 病棟 6B 病棟 6C 病棟	7F	7N 病棟
5F	5A 病棟 5B 病棟 5C 病棟	6F	6N 病棟
4F	4A 病棟 4C 病棟 外来 透析室	5F	5N 病棟
3F	3A 病棟 臨床研究推進センター 患者支援・医療連携センター 医療安全管理部 看護部 管理部門	4F	手術室
2F	外来 内視鏡センター 外来化学療法センター 相談支援センター／がん相談支援センター リハビリテーション部 歯科衛生・技工部	3F	病理診断科・病理部 材料部
1F	外来 救命救急センター 総合案内 受付・会計窓口 採血室 放射線検査室 生理検査室 入院支援室 売店 防災センター 患者支援・医療連携センター（医 療連携室）薬剤部 放射線部 栄養管理部 臨床工学部 管理部門	2F	ICU 血管撮影室
		1F	外来 放射線治療室
多目的棟		事務所棟	
2F	大会議室 感染制御部	2F	メディカルトレーニングセンター
1F	休憩室 理容室	1F	管理部門 カルテ庫
		共用棟	
3F	学生実習室	2F	卒後研修支援センター 検査部
2F	卒後研修支援センター 検査部	1F	検査室
1F	検査室		

建物配置図



アクセスマップ



当
院
ま
で
の
交
通
機
関

市バス

JR仙台駅西口
アイリス青葉ビル前50番 乗車(35分) → 東北医科薬科大学病院入口 下車(徒歩3分)

宮交バス

JR仙台駅西口
アイリス青葉ビル前50番 乗車(35分) → 陸前高砂駅 下車(徒歩7分)

JR仙石線

仙台駅 乗車(7駅、16分) → 陸前高砂駅 下車(徒歩7分)

ご寄付のお願い

東北医科薬科大学病院では企業や個人の皆さまからのご寄付を診療環境の充実や医療機器の整備などに活用しております。温かいご支援とご協力を心よりお願い申し上げます。

ご寄付の使い道

① 医療機器の更新

② 施設改修

③ 安全性の担保や医療の質向上のための環境整備

④ 研究の充実

ご寄付の方法・税制上の優遇措置

<個人の方>

・インターネットまたは書面による申し込み（一口1万円より）

・確定申告により所得税が減税となります。また、お住いの自治体により個人住民税も減税になる場合があります。

<法人の方>

・書面による申し込み（一口10万円より）

・寄付金額を損金算入することができます。

申し込み手続き

東北医科薬科大学病院へのご寄付についてご検討いただける方は、QRコードをご参照いただくか右記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

学校法人東北医科薬科大学 財務部財務課
〒981-8558 宮城県仙台市青葉区小松島4丁目4番1号
TEL:022-234-4181(代表) FAX:022-727-0081
E-mail:kifukin@tohoku-mpu.ac.jp

